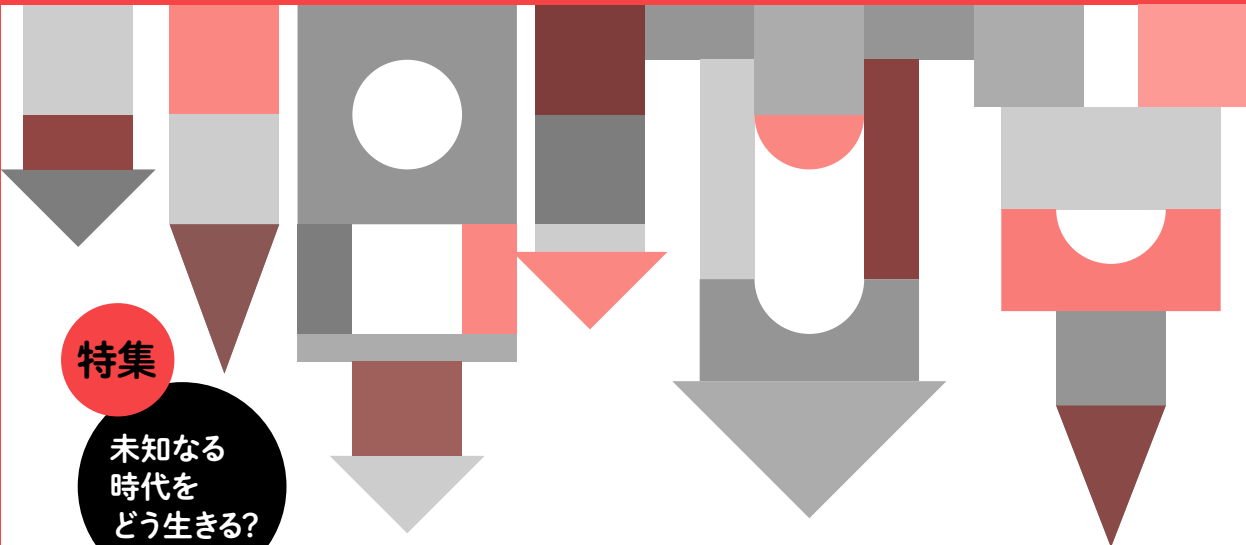




特集

未知なる
時代を
どう生きる？

世界で活躍できる 「子どもの育て方」

「日本は海外と比べて育児しにくい」、家事・育児のすべてを母親ひとりで回す「ワンオペ育児」など、日本の子育ての問題についてはニュースなどで頻繁に取り上げられます。最近では、小泉進次郎環境大臣が日本の現職閣僚として初めて育児休暇を取得しましたが、日本の男性の育児休暇取得率は、女性が80%台なのに対し、わずか6%と低水準となっています。一方、北欧のスウェーデンでは男性の取得率は90%を誇っています。本特集では、日本の子育て事情を改めて見つめ、アメリカ、イギリス、スウェーデンの子育て事情と比較するとともに、世界で通用する子どもの育て方も紹介します。

執筆：船津 徹（ふなつ とおる）

明治大学経営学部卒業後、金融会社勤務を経て幼児教育の権威である七田真氏に師事、英語教材の制作などを行う。その後独立し、米ハワイ州に移住。2001年ホノルルにTLC for Kidsを設立。

世界で活躍できるグローバル人材を育てるための独自の教育プログラムを開発。

卒業生の多くはハーバード大学、イエール大学をはじめとする最難関大学に進学。

著書に『世界標準の子育て』（ダイヤモンド社）、

『失敗に負けない「強い心」が身につく 世界標準の自己肯定感の育て方』

（KADOKAWA）などがある。

編集：竹内佑介 英文校正：Dean Robson

イラスト：Katerina Pereverzeva/Shutterstock.com

日本の子育て事情と問題点

ワンオペ育児、産後うつ、待機児童問題、男性の育児休暇取得率の低さ……

日本の子育て環境を見ると多くの課題があることがわかります。

夫婦共働き世帯が増えるなか、家事・育児の分担をどのように行うべきなのか。

日本が抱える子育て問題を改めて見直してみましょう。



② 日本の子育ての良いところ・悪いところ

Until recently, Japanese society maintained a traditional approach to parenting. However, the development of information and communication technology in recent decades has made that parenting culture largely a thing of the past.

In its place, Japan has begun absorbing “scientifically correct” information on parenting from the West, leaving many Japanese parents confused: standing at the crossroad between traditional Japanese parenting and “correct” Western parenting, they feel unsure about which to trust.

Furthermore, with economy-first and efficiency-first principles having spread into family life, many Japanese mothers are now expected to work in addition to single-handedly managing housework and childcare. As a result, postpartum depression among mothers has become a serious social problem.

Conventional Japanese childrearing culture emphasizes physical contact between mother and child, typically in the acts of carrying, embracing and sleeping together. Such skin contact by mothers has been shown to stabilize children’s emotions and enhance their sense of basic trust, which undoubtedly are wonderful effects of the native childraising culture that should be passed on to future generations.

少し前まで、日本社会には伝統的な子育て文化がありました。ところが近年の情報通信技術の発展により、日本に昔から伝わる子育て文化はほぼ「過去の遺物」となってしまいました。

代わりに、日本は「科学的に正しい」とされる欧米の子育て情報を取り入れ始め、その結果、多くの日本の親たちを混乱させています。昔から伝わる子育てと「正しい」欧米の子育てとの板挟みになり、どちらを信じていいのわからなくなっているのです。

さらに経済至上主義や効率第一主義という価値観が家庭生活に広がり、多くの日本の母親は家事と育児を一人でこなしながら、仕事をすることも期待されています。その結果、母親の「産後うつ」が増え、深刻な社会問題になっています。

日本の伝統的な子育て文化は、「おんぶ」「抱っこ」「添い寝」に代表されるように、母親と子どものスキンシップに重きを置く文化です。母親による皮膚接触は子どもの情緒を安定させ、基本的信頼感を高めることがわかっており、それは確かに、後世に伝えるべき、日本の子育て文化の素晴らしい効果です。

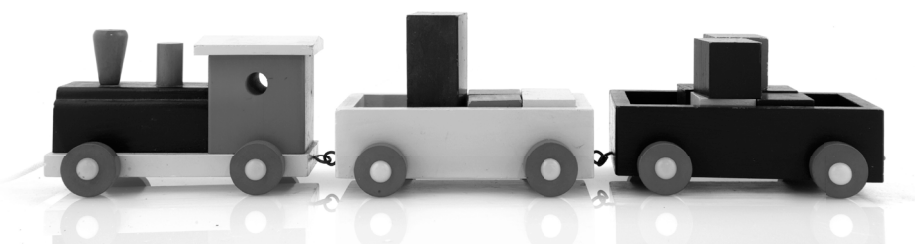


写真: Ivonne Wierik / Shutterstock.com